

2017年5月

5月の連休も終わり、初夏の陽気になりました。みなさまお元気にお過ごしのことと思います。

5月28日（日）は何の日かわかりますか？ この日、大宮フィルハーモニー管弦楽団の第39回定期演奏会が開かれます。是非お越しいただきたく、ご案内いたします。

日 時	5月28日（日） 14:00 開演（13:30 開場）
会 場	さいたま市文化センター（南浦和駅下車 西口 徒歩8分）
曲 目	ベルリオーズ ラコッツィー行進曲 ビゼー 歌劇「カルメン」組曲より グラズノフ 交響曲第5番 変ロ長調 作品55
入場料	全自由席 800円（一般） 500円（小中学生・65歳以上の方）
連絡先	三浦真理子 携帯 080-1031-7971 または、事務局（チラシに記載）

演奏します曲についての詳しい解説は、演奏会場にお入りの際にお渡しするプログラムをお読みいただくことにして、ここではヴィオラ弾きの立場で、私自身の苦労話をさせていただきます。

「たいへん！ 反復練習！ 反復練習！」

前半の2曲は、大宮フィルとして、以前やったことがあります。昔のことになるのでそんなに苦労したという記憶はないのですが、今回、ラコッツィーの明るい躍動感を表現するのに必要な速さを保つことや、カルメンの「お色気」、闘牛士の「情熱」などの表現などが、たいへん！

後半のグラズノフ、これが「たいへん」 現在進行中です。 そのわけは・・・

1 聞いたことのない曲でした

グラズノフご存知でしたか？ 多くの団員、そして私も聞いたことがありませんでした。CDを買って聴くことから始まりました。エネルギーが必要です。

2 ページ数が多いのです

ヴィオラのパート譜（ヴィオラだけの楽譜）は23ページになります。（昨年「運命」は12ページでした） 多くなる理由は、ヴィオラ12人いれば普通ほぼ全員で同じ旋律を弾くのですが、グラズノフでは曲全体の1/4位が2つに分かれており、1楽

章では6つに分かれ(5小節だけ)、3楽章冒頭では5つに分かれ(弦だけで17に分かれています。どんな響きになるのでしょうか?)、音符の数は増えるわけです。また、細かい動きが多く、オタマジヤクシがうじゃうじゃ泳いでいます。そのため同じ旋律を一ゆっくのテンポから少しずつ速くしての反復練習—が必要でした。(人生ゆっくりに過ごすようになった私には速く弾くことは「たいへん)なのです)

3 #、b、♯ が頻繁に登場します

全楽章を通じ、調が目まぐるしく変わります。ヴィオラのパート譜の4楽章から書き出してみます。日体大の天突き体操のようだったり、男女で踊るフォークダンスのようだったり、元気よく前へ前へと演奏は進んでいきます。約7分の演奏ですがその間、

b 2個→b 1個→# 2個→b 2個→b 5個→b 6個→# 6個→♯→b 2個
→# 1個→b 2個

という具合に調が目まぐるしく変わっていきます。小節の中に#やbが付いてくる、いわゆる臨時記号もたくさんです。ヴィオラを弾く際、左手のどの指でその音を出すか決めるのにとっても時間がかかりました。そして、反復練習。

4 2本、3本の弦にまたがっての速い動きが多いのです

左のどの指を使うか決め、右手で持つ弓の弦を渡りあるくタイミングを合わせなくては行けない。そのためにまた、反復練習。

5 テンポが変わる、拍子が変わる、そして変拍子も出てくるのです

テンポ(速さ 1楽章開始間もなく、4分音符9 2→2分音符1 1 2など)、拍子(2拍子→3拍子など)が変わるときは、指揮者の指示を見逃さないよう棒に集中します。楽譜も見ないと弾けないし、たいへん!

もっとたいへんなのは「変拍子」 4楽章に入って間もなくのところ。楽譜上は4拍子となっているけど、聞こえてくるのは3拍子という曲者。体に入るまで、反復練習。

苦労話ばかりでごめんなさい。しかし、グlazノフはとても雄大で、元気の出る曲です。グlazノフが始まったら、真っ暗な深い森の中にいるような気分で聞いてみてください。やがてうっすらと明るくなり、霧が晴れていき、夜が明け、どんどん明るくなり、動物たちが活気づく。昼下がり食べることに一段落した動物たちはのんびり過ごし、そして再び生きるための戦いに出ていく・・・

では、5月28日(日)14:00さいたま市文化センターでお会いしましょう!

三浦真理子